

令和5年度鶴見区区政会議 第2回くらし安全部会（旧：防災・防犯部会） 会議要旨

1 日時 令和5年11月27日（月） 午後7時32分～午後8時46分

2 場所 鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者
（委員）

小倉部会長、黒澤副部会長、齊喜委員、坂本委員、佐々木委員

（鶴見区役所）

中村市民協働課長、土井市民協働課担当係長、蓮元市民協働課担当係長、
保原総務課担当係長、今井総務課担当係長、芝谷総務課担当係長

4 議題

- (1) 部会長・副部会長の選任について
- (2) 令和6年度鶴見区運営方針（素案）について

5 議事要旨

- (1) 部会長・副部会長の選任について

部会長は委員の互選により小倉委員、副部会長は部会長の指名により黒澤委員が選任された。

- (2) 令和6年度鶴見区運営方針（素案）について

事務局から「令和6年度鶴見区運営方針（素案）」（資料1）について説明を行い、委員から受けた主な意見等の概要（◇）及び事務局からの回答（➡）は次のとおり。

◇ 今説明された内容を全てやるのか。実績値が非常に高いのにこれ以上をこれから追求していくということか。「これだけ達成しているのならもうこれ以上はよいのでは、よく頑張っているな」というのが正直な気持ちである。

➡ 区役所が令和6年度に実施していきたいと考えている内容である。また令和7年度には、令和6年度に実際できたか否か区政会議に報告し、委員に評価いただくことになる。一人でも多くの方に施策を届けていきたいと考えており、実績値が高い事業もできる限りそれ以上を目指すことを目標としている。

◇ アンケートはどういう方法でやっているのか。

➡ 区民アンケートは、住民情報のデータから無作為抽出した区民にアンケート用紙を郵送し、記入後に返送していただくか、オンラインで回答いただいている。

◇ 区民アンケートによる評価の問題点は大きく二つある。一つ目は、アンケートに回答する方は良識的・好意的な方であること。無作為抽出とはいえ半数程の方からしか回答が返って

ないため、好意的な方の回答が多いのでは。二つ目は、設問で、「いざというときに備えているか」という問われれば、「私は全く考えてません」と回答する人の方が恐らく少ない。この2点により、実績値は高くなっていると想像される。質問内容を変更した方がいい、アンケートに頼り過ぎるのは実態とかけ離れていく、というこの2点は以前から指摘してきたが、その辺りの具体的な内容がまだもらえていない。

- ◇ 高い数値が欲しいから質問の内容が甘くなる部分もあるということか。
- ➔ 今年度の区民アンケートでは改善を検討のうえ反映した。一つは、訓練に参加できなかった人に「なぜ参加できなかったのか」を問う質問を設けた。例えば「知らなかった」のであれば広報や地域の広報支援が必要となるし、「自分は助かるから大丈夫と思っている」のなら、共助の必要性等を周知していく必要がある。どのようなアプローチを取れば、効率よく参加者を広く獲得できるかの参考にしたい。
- ◇ であれば、例えば「知っている」「感じている」という回答のその先をどう分析して対策していくかが大事になってくるかと思うが、その部分がこの資料では見えてこない。
- ➔ 「どういう備えをしていますか」という問いに「全く何もしてません」と回答する区民は少数だと考えられるため、備えを「今年から始めた」のか「以前からやっていた」のかを選べるようにしたいと考えている。「今年から始めた」人がほとんどいなければ、軸足を置いて広報する必要がある。
- ◇ とてもいいアイデアだと思う。例えば鶴見区民の8割から「いざというときに備えている」と回答が返ってきても、本当に安全・安心と言えるかどうかはまた別問題である。例えば「今年からこの事業に初めて参加した人が何%増えたのか」が5年間積み上がれば、広がりやステップアップが評価できる。だからやはり設問内容が大事である。また、備えていない人にどうアプローチして意識を上げるかが課題であり、それにどう対策するかが重要では。
- ➔ 行政からアプローチし続けなければ意識が低下してくると思われるので、アプローチを続けていきたい。
- ◇ 25 ページの「必要とする区政情報が必要なときに入手できていると回答した区民の割合」という成果指標について、人によって欲しい情報には差があるのに全て一括りにして何%以上というのは乱暴ではないか。また、区民が知りたい情報ではなく、区民に知ってもらわなくてはならない情報が届いているかという視点がない。情報に到達できなかった方をどう改善していくのが課題。75%以上あればOKではなく、残り25%をどう解決するのがポイントである。
- ➔ まず広く情報を届けるという使命があるため、ご指摘の部分まで踏み込んだ設問にはできていなかった。日頃、生の声で「見にくい」「ここをこうしてもらえたら」といったご意見をお聞きする機会はあるが、欲しい情報にたどり着けず諦めた方もいるかもしれないので、今後の区民アンケートの設問にはご指摘の内容を取り入れていきたい。
- ◇ 27 ページ、『意見交換が行われている』と感じている区政会議委員が75%以上」という成果指標は、言いたくても発言できなかった方であろう残り25%の人の方が気になる。「思っていない」と回答した理由等をどう分析しているか。

- ➔ 「意見を述べるために前提となる区の現状や行政の仕組み等についての知識が不足している」という回答が最も多く、「会議前に十分資料を読み込む時間がない」「資料が多過ぎて分かりにくい」といったご回答が多かった。この指標の実績値は全体会のもの。議論は実質的に部会で行われ、全体会はその報告が中心であるため、部会の指標の方が全体会よりは高めである。「他の部会の議題について意見を述べづらい」というような回答もあった。「説明が長過ぎるので議論しづらい」というご意見もあったが、今回は初めての委員もいるので、説明に時間を取らせていただいた。
- ◇ 28、29 ページの SDGs の成果指標について、SDGs 自体の概念は幅広く奥が深いため、何ををもって「SDGs に取り組んでいるか」と捉えるのは難しい。SDGs だと認識した上で活動している人もいるだろうが、「SDGs を知っているか」と聞かれた時に、これだけ話題になっていたらみな知っており、この設問だけでは実態を反映しないのではと感じる。また、SDGs は経済合理性とのバランスという話になる。地域活動の中で SDGs に取り組もうとするとコストアップにつながる。継続的に取り組むなら散りも積もれば対策になるが、祭りは単発で終わる。それなら経済合理性の方を考えずにはいられない。地域をあずかる地域活動協議会は、この SDGs をどう考え、どう受け取り、どう進めていったらいいのか疑問である。
- ➔ SDGs に取り組もうとするとコストがかかる面はある。区民まつりでも「かき氷や焼きそばがプラスチックのトレーに入っているのをどう考えているのか」というご意見も頂戴する。マイ皿・マイトレイの持参に取り組む市町村もあれば、プラスチックが少ない材質の容器も増えている。コストアップもあるが、できるところからご協力いただき、SDGs が身近な問題であることを広報周知できたらと考えている。
- ◇ 今は過渡期なのかもしれない。子どもには「SDGs や環境のことを考えなさい」と言いながら、かき氷の容器のように代替できない物もある。
- ➔ 箸だけマイ箸など、できるところから何か目に見える形で取り組んでいくことが期待されていると考える。
- ◇ SDGs 全体を考えるのは非常に大変だが、恐らく本来は、全体のバランスを取らないと意味がないと思う。「一部分だけでも取り入れていたらそれでいい」という過渡期と捉えておけばよいのか。意識することが大事ななのかもしれない。
- ➔ SDGs は 17 個あるが、一つ進めるとどれかが犠牲になることもある。全てをとというのは難しいが、できるところからやれば巡り巡って地球に良いことになると思う。区民に SDGs を意識してもらえよう努める。

6 会議資料

- (1) 次第
- (2) 令和 6 年度鶴見区運営方針（素案）（資料 1）